

The 49th
Kanagawa
Art Exhibition
2013

第 49 回
神 奈 川 県
美 術 展

第 49 回

神 奈 川 県

美 術 展

The 49th Kanagawa Art Exhibition 2013

1期展

[平面・立体] 平成25年9月4日(水)～9月15日(日)

2期展

[工芸・書・写真] 平成25年9月18日(水)～9月29日(日)

会場

神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展

平成25年10月2日(水)～10月11日(金)

休み:10月7日(月)、10月8日(火)

会場

厚木市文化会館展示室

主催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

[指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団]

神奈川県

共催

公益財団法人厚木市文化振興財団

協賛

公益財団法人はまぎん産業文化振興財団

学校法人大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会

株式会社ニコン

後援

神奈川新聞社／NHK横浜放送局／tvk(テレビ神奈川)

FMヨコハマ



芸術の秋を迎え、今年も皆様から意欲あふれる数多くの作品をご出品いただき、神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を開催できることを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、本美術展の開催にあたりご尽力いただきました関係の皆様に心からお礼申し上げます。

今年で第49回を迎えるこの美術展は、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品できる県内最大規模の公募美術展です。芸術家をして日々研さんを積まれている方から、趣味として創作活動に取り組まれている方まで、幅広く成果を発表する場として、長年にわたり県民の皆様に親しまれてきました。

また、本美術展の水準は高く、これまで多くの方が入賞を機に全国、そして世界へと羽ばたいていかれた歴史があります。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門合わせて852点と大変多くの応募がありました。会場には、数々の力作の中から厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品が展示されています。ご来場の皆様方には、作家の方々の豊かな感性、優れた芸術性を存分に味わっていただけるものと思います。

文化芸術は、人々の心を豊かにするだけでなく、地域に個性や活力をもたらし、人々をひきつけるマグネット力を持っています。

県では、文化芸術のそうした力を大切にして、人々が集い、輝く、魅力と賑わいにあふれる神奈川の創造に取り組んでいます。その実現に向けて、関係の皆様方におかれましては、今後とも美術を通して文化芸術の振興に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、このたびご出品くださいました皆様の、創作活動への情熱に対し深く敬意を表しますとともに、皆様のますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

平成25年9月4日

神奈川県知事 黒岩 祐治



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第49回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に700人、852点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、408人、408点の作品が選ばされました。今年も、多くの方にご応募いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生をつくりあげていく大切な時間でもあると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、さまざまな想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員会の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成25年9月4日

神奈川県美術展委員会委員長 酒井 忠康

1期展

平面立体

受賞作品目録

平面立体

大賞	安田 文夫	茅ヶ崎市	がん告知・余命?・孫と遊ぶ(2枚組)	平面
準大賞	石井いつ子	東京都	明日の足跡(Ⅱ)	平面
特選	丹波 宏之	横浜市	鬼の真心	平面
特選	中村 宏太	鎌倉市	炸裂	立体
奨励賞	松村 美保	茅ヶ崎市	「私は何も語らない」	平面
県立近代美術館賞	神 祥子	東京都	暮方	平面
県議会議長賞	神野 隆起	横浜市	港神戸朝模様	平面
はまぎん財団賞	高橋 洋子	足柄上郡松田町	22731620の思考	平面
美術奨学会記念賞	加藤 力	横浜市	流像	平面

*県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された作品の買い上げ賞です。

*美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創設され、35歳以下を対象とした賞です。

*はまぎん財団賞は、公益財団法人はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した作家に贈られる賞です。

*県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した作家に贈られる賞です。

*市町村名は現住所です。

*各部門大賞、準大賞の略歴は作家の提供によります。

入選作品目録

平面

木下 泰徳	KADAN
佐相 信也	心のわり算(6+3+1)÷2は
小野島夏子	光風
井口 信	宇宙のはじまり
石渡 文	Kirikabu
岡本ヒロシ	あめあがり(Ⅲ)
前田 琢也	Room I 美しい恋愛
渋谷 雅廣	womb
若宮 熙子	晩秋
宮川美都子	冬光
オノ・ヨシヒロ	Work'13-No.13「Day Break」
梶山 文伸	自然 - (10)
井澤 俊子	ブッフォーチーズをつくる女
松田 洋子	花降る午後
真下 典子	パラサイト チルドレン
江崎 美亜	私の庭、誰かの街
石井いつ子	明日の足跡(I)
大塚とみ子	響き
神保 健城	ロバのミンミン
和田 健二	牛飼い
桜井 敬子	風景の記 II
藤村 弘子	ウォッチ・ザ・ステップ
一ノ木タツミ	美動
本岡 幹朗	纏う思考
黒沢 進士	アフリカン マンドリル
平林 英一	垂曲線(R5)
平松 智子	遊園日蝕
金子健一郎	レイヤー化する世界
夏木 精	まだ固まらない
田陽 佳子	三家子
菊池 浄雲	無題
安丸 由子	夕日にそまる
浅井敬一郎	鐵の幻想 II
青山 雅史	邂逅(サグラダ・ファミリアにて)
美濃 寿則	湖畔 2
柿沼千代子	好きなの
加藤 哲郎	流
塙原 千晶	his story
オオツカ リリ	ムフロンはここに来るまで8つの山を越えた
平田 清隆	無題

※掲載は出品者番号順です。

吉竹 昌子

吉竹 昌子	私の空
河上 明彦	コトの行方「イツカハウカル」
高浦とみ子	公園へ行こう
広瀬 弘幸	晴れ
山田 恵子	Hayama
横山 俊光	石球のある風景-祈り
川副麻里子	そこにある恐怖
佐々木房子	ただよう
吉田 早苗	木に入る
平澤 咲	ゆく
山脇 勇大	Moire I
畠山 太志	REBIRTHDAY
五野上美緒	2匹のトゲのあるふにゃふにゃの生物
新井 幸雄	絵画教室
後藤恵美子	水の風景
船津 雅子	欲望
吉田 純子	たましいのかたち
村上由紀子	退屈な時間
渡辺 幸子	影
横山 孝司	ツタ 5
長谷川 大	瞳に映る光の輪
五十嵐恵子	むこうがわ
亀山 治代	映 I
横山 博志	生滅外天
清水 亮輔	Landscape
原 いづみ	ふたり(2枚組)
加藤 覚	江北橋夜景
国次 真理	紡ぐ輪廻
木下 愛美	水煙
金子 透	ESPACE(空間)
元木 秀信	日常 ①
根本 雅行	Turquoise_01
澤田 サチ	活きて流れて
辻本 興一	カタルーニャ広場
廣竹 成信	あじさいとケロちゃん
西山 巍	TICAD 5
奥天 昌樹	line
杉谷 千速	山なかに立つロマネスク
和田 彰	BUGAKU
松村 憲二	運河残映

入選作品目録

白石 武市	青い海
飯村 優介	水象ヤマカミ LT
阿部彩葉子	すやすや暮らす
田中 實	静寂
齋藤 智子	赤い地球
宮嶋 恵子	floor(狭まる)
津田 邦彦	UME 3

立体

山本 秀明	兆し
安藤 開	在ると無いのゆらぎ
小泉 昌浩	Catharsis(5個組)
笠谷 耕二	作品 II
八代 萌	月／蔓の下
村田 和生	Collage 2
安蔵 隆朝	Dessert of tonight
伊藤 綾野	The Shell
峯野布祐子	憩う(2個組)
藤井 唯里	ANOTHER PILLAR
峯野 加菜	奇
頬則ひかり	赤星を知る
竹之内佑太	隔てられた個体、つまり全体
奥山 陽太	dancing god with golden socks
白井小百合	ひるにみる、よるのゆめ(右葉)
荒木 美由	Zeit – 石の時 –
堀田 千尋	かごめかごめ
寺田 彩乃	岩礁のドレス
上浦 佑太	1307(60°)
内田 充	姉妹(月と舟)
山本 早織	ジョーさん
山本 豊彦	行方・R930
石井 文音	systematic

平面立体

北澤 憲昭

県展は曲がり角にさしかかっている。ぜんたいに低迷の印象をまぬかれず、はっとするような新味に富んだ作品と出会うことはなかった。

低迷の印象は、たんなる繰り言にすぎないとして、しかし、斬新な作品が見当たらないのは、それなりの理由があると思う。若手に照準を合わせた公募展や、それに準ずる発表の機会が増えているからだ。県展は、若手が、みずから頭角を世に示し、見得を切ってみせる場所としては、もはやくすんだ存在となってしまっているようである。

だが、これは県展の存在理由が無くなつたことを意味しない。県展には、さまざまな次元がある。では、曲がり角にさしかかったこのときにあたって、いかなる次元を突出させればよいのか。県展の社会的意義は、ひとえにこの問題にかかっている。そして、県展の在り方をアピールする役割は審査が担うべきだと考える。

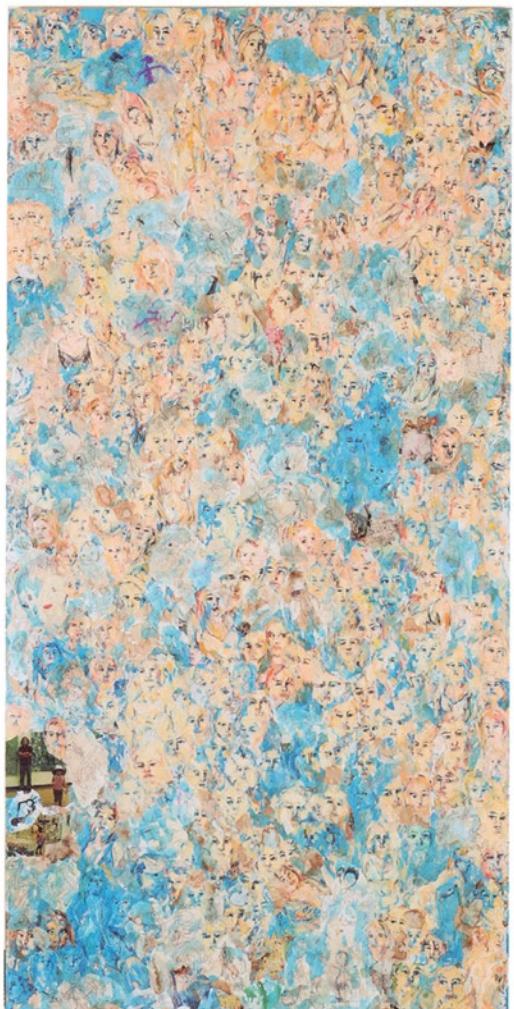
このたび大賞を授賞した安田文夫のディプロティク(対幅)は、決して絵画的に質の高いものではなく、むしろ素人らしさの際立つものだが、青を背景として無数の顔が画面を覆うそのオブセッシヴな有りようは、絵画という形式をものともしない訴求力をもつ。見る者に不安感をもたらしもする顔たちの合間のところどころに、子どもを交えた家族写真がコラージュされているのは、そのちぐはぐさにおいて強い異化作用をもつ。タイトル《がん告知・余命?・孫と遊ぶ》は、あまりに直接的で感興を削がれた思いがするものの、今後の県展の行き方を考えるとき、無下に否定するわけにもいかない。

準大賞の石井いつ子《明日の足跡(Ⅱ)》は、記

号のような形象を、コラージュを交えて描き重ねていった、しぶいティストの絵画である。ところどころにセロハンテープらしきものが使われているのは、いかにもチープでいただけないが、絵画のスタンダードへとにじり寄る静かな情熱は、それを凌駕してあまりある。タイトルも意味深長だ。さまざまな解釈がありうることを前提として敢えていえば、未来である「明日」を、「足跡」という語を梃に過去として眺めている感覚に興味を覚えた。あるいは、「明日」という名の未来が今日の自分におよぼす影響ともとれないことはない。いずれにせよ、ここには詩的逆説がはたらいている。

特選(平面)の丹波宏之《鬼の真心》は、ダブルとしての自己ともいるべき奇妙なポートレイトだが、主眼は、主題性よりもむしろ、パンクな色と筆さばきによる遊びにこそあると思われる。特選(立体)の中村宏太《炸裂》は、弾丸様のものが正方形の金属板のほぼ中央にめりこんでいる作品である。暴力的ともいえる手法だが、裏にまわると、命中部分の金属がやわらかな曲面を描いておりあがっており、優雅なたたずまいをみせている。そのコントラストがこの作品の妙味である。県立近代美術館賞の神祥子《暮方》は、窓と鏡と絵画の組み合わせによるイメージの無数の反響を画面に鳴り響かせる秀作だが、「絵画の知性」ということを改めて意識させる問題作でもある。

大賞と準大賞は、特選に比して、いくぶん地味な作品に偏ったものの、県展の曲がり角において、わたくしたちが行ったステアリングの試みと受け取っていただければさいわいである。



大賞

がん告知・余命?・孫と遊ぶ(2枚組)／安田 文夫

アクリル、ボールペン、写真、印刷物等コラージュ、パネル 182×91cm

- 【略歴】 1938年 東京都生まれ
1960年 武蔵野美術学校第2本科(西洋画科)卒業
- 【展覧会歴】 1992年 神奈川県美術展入選(～'12まで17回)
1999年 現代日本美術展入選
2002年 上野の森美術館大賞展入選(～'05、「11～'13)
2003年 八王子市夢美術館開館記念「美術誕生」展入選
2004年 富嶽ビエンナーレ展入選
2005年 別府アジアビエンナーレ2005－絵画展入選
2006年 池田満寿夫記念芸術賞展入選
2007年 横須賀市制100周年記念「横須賀」展入選
2008年 ビエンナーレうしく展入選
2009年 北陸中日美術展入選('08～'11)
2010年 あさご芸術の森大賞展入選
2011年 京展入選('08～'13)
2012年 あさごアートコンペティション2012入選
2013年 世界絵画大賞展入選





準大賞

明日の足跡(II)／石井 いつ子

アクリル、キャンバス 193×162cm

略歴

1991～2013 国画会展
1991 上野の森自然を描く展・大賞
2000～2001 上野の森美術館大賞展
2004～2008 神奈川県展
2009 国画会展・奨励賞

個展 ギャラリー・ポート('99)
ギャラリー・モテキ('01, '07)
ギャラリー・風('06)

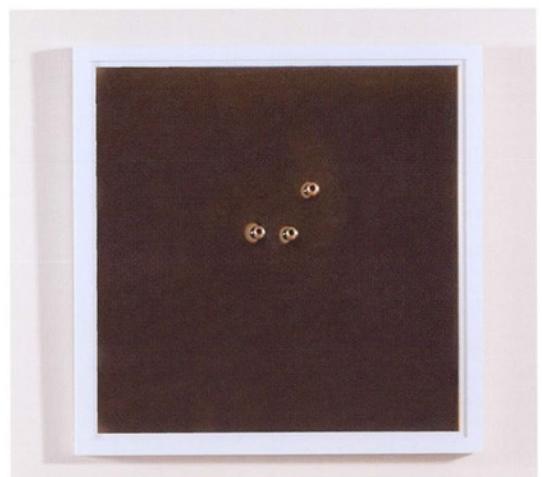
グループ展・多数

現在・国画会絵画部準会員



特選

鬼の真心／丹波 宏之
油彩、キャンバス 182×227cm



特選

炸裂／中村 宏太
真鍮、金、弾丸、樹脂 100×20cm



奨励賞

「私は何も語らない」／松村 美保

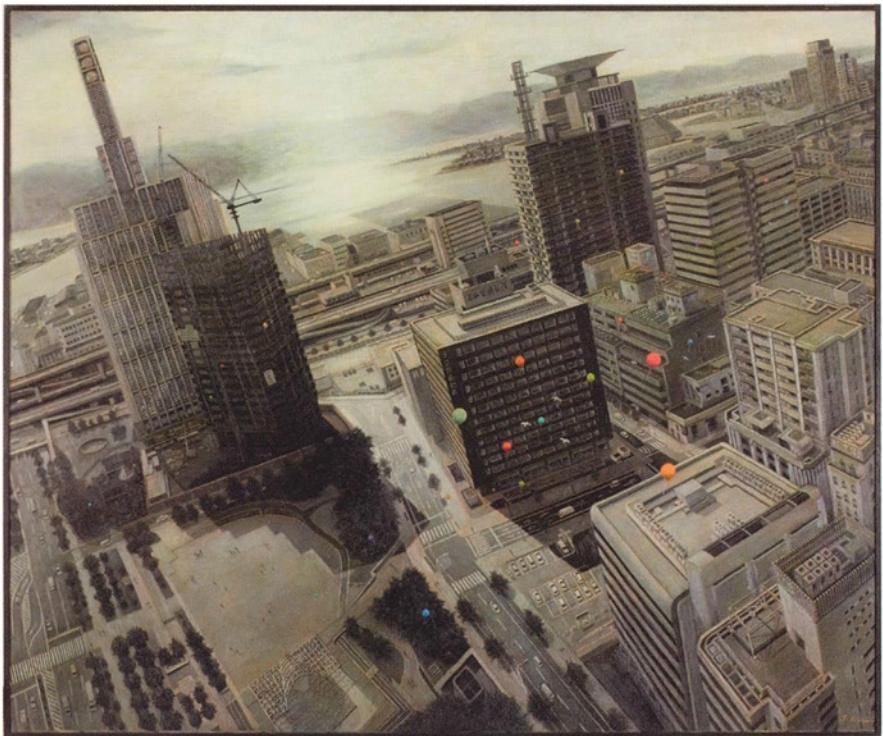
アクリル、油彩、キャンバス 135×167cm



県立近代美術館賞

暮方／神 祥子

油彩、キャンバス 100×80.3cm



県議会議長賞

港神戸朝模様／神野 隆起
油彩、キャンバス 166×198cm



はまぎん財団賞

22731620の思考／高橋 洋子
油彩 227.3×162cm



美術奨学会記念賞

流像／加藤 力

油彩、キャンバス 194.5 × 162.3cm

|2期展
|工芸・書・写真

受賞作品目録

工芸

大賞	土橋 一博	川崎市	流流文鉢	ガラス
準大賞	関水 美穂	藤沢市	Tubeworm	染織
特選	佐藤 典克	相模原市	白磁綻器	陶芸
特選	福田 典子	川崎市	団栗の木のある風景	七宝
奨励賞	鶴岡 弘	川崎市	草原の貢ぎもの	漆
大塚学院賞	柴原 勝治	川崎市	栗長文机(拭漆)	木材工
美術奨学会記念賞	伊藤 康行	藤沢市	風化紋銀彩器	陶芸
美術奨学会記念賞	大貫 路子	横須賀市	黒陽	染色

書

大賞	井上 春苑	横浜市	張子容詩
準大賞	小嶋 直子	伊勢原市	秋海棠の花
特選	小磯 栄芳	横須賀市	劉松詩
特選	横山 聖水	横須賀市	送許竹隱之紹興
奨励賞	棧敷 東煌	横浜市	唐衣
県文具事務用品団体連合会賞	遠藤 子杏	平塚市	希高慕古
美術奨学会記念賞	小島 右慎	平塚市	篆書七言聯
美術奨学会記念賞	日守 錬	中郡大磯町	現実からの視点を越えて

写真

大賞	加山 邦輔	川崎市	郷里.8.15(3枚組)
準大賞	三村 信昭	横浜市	跳ぶわよ!
特選	石川 英樹	横浜市	緑の倫理(2枚組)
特選	清水 治弘	横浜市	追想(3枚組)
特選	古郡 和敏	茅ヶ崎市	2年という歳月(3枚組)
奨励賞	岩崎 茂樹	鎌倉市	予兆(3枚組)
ニコン賞	竹内 修	横須賀市	田に遊ぶ
美術奨学会記念賞	本岡 幹朗	横浜市	彼奴の存在
美術奨学会記念賞	安井みゆき	東京都	sink

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※大塚学院賞は、学校法人大塚学院から工芸部門の作家に贈られる賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、株式会社ニコンから写真部門の作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

※各部門大賞、準大賞の略歴は作家の提供によります。

入選作品目録

工芸

森 玲子	irodori(5個組)
土屋 光男	彩霞
古坊 聖子	大きな器
山口あさこ	紬織着物「渓」
玉川 哲也	廻
藤田 慎治	葡萄紋三耳大壺
内藤 博隆	瓢箪の灯
新井 早苗	プードル
鈴木 実穂	りょう
石川ヤイ子	日本刺しゅう 月下美人
川泉 孝一	天目釉輪白大鉢
原田 克治	Water Planet
安部 邦子	パンドラ
木村 謙一	三島手大台鉢
辰井 康雄	雲母金彩双口花器
清水 実	組木パズル CSF2-1(2個組)
平野 実	茜暮れ
長堀 広志	細胞分裂
志賀 邦範	光の蘭 0882
上野 弘子	陽光
安藤由美子	WAVE(5枚組)
千葉ひろみ	UZUMAKI-2013
石橋 伸一	活け花
沖 知江子	硝子蓋物「雨の音」
今井 信二	青白磁面取平鉢
大原 乾資	藍の板締染
小島 也実	Nebula
辻 星子	隅田川の夜
浪治 明子	水のうつわ(6枚組)
中沢有美(JOYdolls)	光
小林 広美	文具葉書入れ「輝」
山根 悠介	白磁蓋付飾壺
森田 晶子	白彩黒泥大壺「雪華」
山本 朋子	水玉ファンタジー(9個組)
近藤 純子	キラメク
宮川香代子	飾筥(黎明)
百田 輝	釉彩刻文壺
高橋 英昭	土を織る
田中 ちか	生命のルミナリエ
金子 恵子	どこに行く?

※掲載は出品者番号順です。

古家 郁子	風のゆくえ
高井 義之	柔らかな境界(3個組)
小竹 章子	雪どけ
杉山 純美	織と遊ぶ(4枚組)
阿久津 實	散歩(娘とシェパード)
下平久美子	滄溟の詩歌
深野 怜	色絵銀彩皿「方舟」
中山 愛子	魚影Ⅱ
大野 澄子	土恋舟
岡田 光子	これから
小林 和子	旋律
柳橋 佳菜	愛兎
濵木 智宏	ici
吉田 真子	白磁 白木蓮文皿
伊藤 和弘	ジャケツイバラ
並木 健	塩釉小紋鉢
生頬美砂恵	育む(15個組)
大塚 国男	破壊と再生
五月女智子	重
小酒井基紘	シルクロード ラクダ大行進
二俣 吉秀	革盒 oniyama
金井 裕子	弦を奏でる
石井 力	対(2個組)
望月すみ子	平角皿(銀波)
佐藤 一彦	復興の思い(喜びと不安)
笛川 興司	TORSO 2
渡部 裕子	クレマチス
土屋 祐康	泥彩象嵌丸文花器
落合 千翠	繫ぐ
吉満 俊久	備前花器 破
千葉 真理	カーネーション
菊池 保裕	速秋津姫
眞貝 竜一	HEART
りなした陽子	不確実な時代の私の足跡
新田 五月	宙 I
中嶋 純子	10年 クジャク 有終の美
山口満里子	snow waltz
三浦 静香	瀧
長沢 碧	桜に流水
山嵩 直子	ア・Saanかなっ?! '13
山本 直美	ネモフィラの丘
大西 千穂	捧ぐ

書

池田 翠艶	中務集
兎澤 羊舟	東寺竹
上村 泊舟	詠懷(董樵詩)
松田 栖舟	松蘿谷
中山 壽香	驄馬驅
橋本 紫柳	嘉陽登舟
加藤 香華	雨止む
佐藤 清紫	月夜遊秋水橋岸
荒川 涼舟	曉渡平羌江歩上凌雲絕頂
新井 幸舟	感懷
高木 香葉	詠懷
柿沼 柏苑	雨宿桃源菴
柿沼 芳秋	擬古
三谷 巍雨	古劍快詩二首
四季 茜歩	白黒
黒沢 玲香	張均詩「岳陽晚景」
徳原 玉萩	静遼
本間 弘一	宋子問詩
内堀 雪芳	杜甫詩
黒川 鶴翠	陳子昂詩
杉村 莊雲	李白詩
松尾 米子	桜
池上 恵峰	ほととぎす
大庭 香舟	孟浩然の詩
鈴木 良子	ひさかたの
関野英美子	心あてに
田名部泉聲	新古今和歌集
島森 椿茜	桂本万葉集 臨書
木下 清華	故郷の
浅間 静江	俳句2首(芭蕉)
小笛 総翠	宿裴氏山荘
中村 霽澄	大伴家持の歌
豊田 紫英	箱根路を
小倉 和子	鹿ぞ鳴く
茅野 秀苑	白露
吉田 翠鶴	秋立つ日
鶴賀 一漣	藤原俊成の歌
前川 爽凜	忘れもの
高木 昌子	田中冬二の詩から
岩崎貴代恵	ルビーの耀き

※掲載は出品者番号順です。

伊藤 湘理	慕情 桑田佳祐の詞
中原 麻恵	高橋新吉の詩から
川名 啓心	陳子昂詩
伊藤 靖柯	穆如清風
重田 鶴耀	卜居
島村 秀芳	杜甫詩
高橋 暢芳	漢詩「秋景」
都久山麗芳	王沂詩
中山 見瑞	賈至詩
森崎 愛芳	高棟詩
渡部 祥優	鄭巢詩
藤倉 汀雪	月到天心處
新井 青谿	烏夜啼
三橋 和泉	杜甫詩
山家 仁甫	川せみ
青木 行歩	月
江口 成甫	大江山
石井 香月	夏山
金子 流川	巍々蕩々
平林 裕子	家和萬事興
山口早合里	珠圓玉潤
山田 栄恵	古今和歌集
中澤 春雪	古今和歌集
森田太祢子	飲和食德
古川 静	串田孫一の詩から
鈴木まさ子	遠雷 田中冬二の詩
簗島三重子	吉田一穂の詩
水本 知葉	大方廣佛巻経入法界品 第三十九之五 卷六十四
亀村 游石	吳昌碩詩
酒井 修	綠窓人靜
松本 亘正	蘇東坡詩
井上 馨	得好友
古里 航	龍吟虎嘯
中田 早苗	山川草木悉皆成仏
鯉沼 紫虹	黃哲の詩
松田 紀子	夕陽を閉じる刻
大木 明子	空と海 境騒
深瀬加代子	小野寺逢仙歌
竹内絵里子	まちのあかねの詩 舞台
竹内めぐみ	長閑な日

山本 清子	葛花は蝶の群れ(自作)
福永富砂子	陽彩
石井 久美	菜穂子の詩 晓はたまゆら
福田 夢澄	森田新菜の詩 ヨコハマ散歩
小林 千幸	駅のホームで潮騒をたのしむ
松尾 純子	柏尾川の川面の温顔
本間 琴秀	みやまうすゆきそう 伊藤秀五郎の詩
松本 弘子	高野光子の詩 電車のなかで
上野 春海	温の短歌
馬場 虹苑	壺井繁治の詩
片岡 稲處	彭衙行
神山 紅雲	嚴敕詩 吾家三兄弟
武 啓茜	わかのうら
中村久仁江	コスマスの花
片岡 雪輝	錢起詩
野頭 莊雲	入崎城中故人
濫谷 莊江	由空谷至中峯(張進作)
鈴木 天鳴	月夜
鈴木 静耕	過香積寺
小山 莊雪	蓮花庵
前橋 蒼峻	九月八日城東樓晚眺寄史使君姑孰
西澤 蒼海	陳獻章詩 晚歩
片岡 嵐山	秋懷
鳥海 富子	見る人もなくて
河田 和代	秋の野に
藁科 良信	かすめども
阿部 馨月	秋風
佐々木永隆	良寛の歌
生駒 蘭嵩	杜甫詩
相根 恒舟	古今集四首
榎本 蘭方	ふじの花
五十嵐杏華	万葉集
横山 弘子	春立つ日
河又世津子	しろき手が
松前 沙瑛	劉嗣綰詩
根岸 玲香	袁枚詩
土屋 景暉	王漁洋詩
鈴木 翠風	李東陽詩
猪俣 香浦	徐渭詩
貴家 德卿	篆刻(2顆)

山内 謙吉	行雲流水
近藤 啓子	風來疏竹
井熊 節夫	一切從心転

※掲載は出品者番号順です。

写真

漆原 利大	失われ逝くもの(3枚組)
吉原 靖男	あるく(3枚組)
根本 紀男	火渡り
近藤 敏幸	これ なんだあ～?
岡本 一	巣作りの頃
松本 勝治	朝陽に映える
鈴木 末雄	戯れる人と鯉
白崎 裕彦	うらめしい!立入禁止
小高 紘佑	生きる(3枚組)
長谷部忠徳	ひよこ連
高木太三郎	幻想の瞬間
岸 賢司	撮って撮って
鈴木喜久郎	職場での今日
稻次 正知	冬彩
大槻 操	昼さがり(2枚組)
小田柿雅彦	ハマの漁師町(3枚組)
吉田 好臣	赤レンガ倉庫裏
大出 光信	自由市場-雲南省シーサンパンナ(3枚組)
中山洋之助	岸壁の風貌(3枚組)
多田 正司	夕映えの海(3枚組)
津田 祥夫	空襲が残る駅(3枚組)
五十嵐 航	休漁日の静寂
稻垣 健	視線
西沢一比古	繕いによる造形T
古澤 直代	夜半の装いB
竜崎 浩	がんばっし陸前高田(2013年夏)(3枚組)
向田壽美子	Vegetarian (ベジタリアン)
竹田 宏司	腕白ざかり
吉川 純子	vision
佐藤 忠	朝の輝き
小島 昇	光輪
商 家訓	リトルアメリカ(3枚組)
長嶋 巧	光彩
長嶋 絹絵	埋み火
宮坂 駿一	外壁三態(3枚組)
大久保忠宏	時化模様
牛木 実	飛び入り
上原 大樹	リリース
鈴木喜三郎	動静の舞台
小山 仁	望郷

高橋 英昭	午睡のあと(2枚組)
高浦 正幸	alone (3枚組)
金子 正隆	サーファー
三浦 房子	浮き雲
三浦 隆典	ティンガ・ティンガ(3枚組)
山下 泰雄	焰
大村美保子	レトロ風の商店街
米山 好人	ノワール
福田 仁子	親子?
椎葉 琢磨	ReBirth (2枚組)
有馬 良江	洩るる陽(3枚組)
新城 英一	静寂(3枚組)
小林 一重	クラスター(3枚組)
飯島 秀之	ことだま
小池 将夫	かわいいゲスト
大山 将司	思いいづる
奥田 恭子	分校(バングラデシュ)(2枚組)
鈴木 元彦	光の雨(2枚組)
古塙 政由	都市散歩

※掲載は出品者番号順です。

工芸

富田 康子

まず、応募状況について。今年の工芸部門の応募作品数は147点、応募者数は128人だった。前回の応募数113人143点に比べ、人数の上では約1割増加。また、今年の特徴として、一人が複数の作品を応募するケースが、例年よりも少なかった点があげられる。このうち入選作品数は90点で、前年よりも点数が増えている。出品されたすべての方に、まずはお礼を申し上げたい。

次に作品審査の進め方について報告する。全出品作品について、各審査員が25枚の票を入れていき、1票以上得た作品をすべて入選とした。この時点で、審査員5人の過半数である3人以上の票を得た32作品を賞候補とし、改めて賞の審査に入った。

ここでも、まずは投票による審査を行い、賞候補作品をいったん20作品まで絞ってから、賞ごとに審査を進めることとした。

大賞と準大賞は、いずれも、賞候補を絞った時点で審査員全員の票を得た作品。そのうちどちらか一方を選ぶ“決選投票”を行い、票の多かった作品を大賞とした。その他の賞についても、原則として、投票または多数決により決定した。技法上の特徴や見どころについては、賞候補を選考する段階で、各審査員に専門的な解説を加えてもらい、お互いの評価の参考にした。

次に、受賞作品について。

まず、大賞の土橋一博《流流文鉢》。ツバのようなくぼみが広がった口縁部分が、さまざまな色とパターンの同心円状のストライプで構成されている。ストライプのパート一つ一つをあらかじめ作っておき、あとからそれらを溶着して宙吹きするという手の込んだ手法で制作さ

れたもの。動きをともなった多様なパターンには、見る側の気持ちを弾ませてくれるような、または、周囲の空気にリズムを与えてくれるような、独特の存在感がある。単に華やかというだけではない、この作品ならではの持ち味だと思う。

準大賞の関水美穂《Tubeworm》は、チューブワームという海の生物を文様化した型染めの作品。モティーフそのものの新鮮味が、まずは目を引くが、それだけでなく、その目新しいモティーフを完成度の高い連続模様にアレンジした点にも驚かされた。白地が生かされた配色も爽やかな印象を与える。

特選2点も、賞候補の上位作品から選出した。また大塚学院賞は、県展への出品例がきわめて少ない木工家具分野から選出した。35歳以下を対象とした美術奨学会記念賞には、染めのパネル大貫路子《黒陽》、陶芸の伊藤康行《風化紋銀彩器》。これに対し、今年の工芸部門では、奨励賞をキャリアの長い出品者に対する賞とするに決め、鶴岡弘《草原の貢ぎもの》を選出した。線的なパートを組み合わせて立体造形を作り出す手法に独自性があり、その点に興味を引かれた。

ちなみに、今年最も若い入選者は16歳、最高齢の入選者は77歳だったと聞いた。また、出品された方の中には、80歳代の方もいらっしゃったそうだ。趣味の方も独学の方も、すでに作家としてのキャリアをおもちの方もおられたと思うが、多くの方にとって、今後もこの県展が、大作、意欲作を手がけるきっかけとして機能してくれれば、審査に関わった者として嬉しく思う。

江戸時代以来、書は、各地の地方文化と江戸や京といった都市文化との連接点であるといつていい。都市文化は地方に浸潤し、地方文化はときに都市で花開く。

この神奈川県美術展も、中央公募展とはいふん異なる尺度をはらんでいるところが特徴だろう。毎日書道展、読売書法展、日展といった公募展では、それぞれの展覧会の内部でゆるやかに制作思想を共有し、全国から作品を集め。それに対して神奈川県美術展のように地方自治体などで主催する書道展の出品者を結びつけるのは、それぞれの地域の風土や郷土文化である。そもそも、個という多様性を愉しむ書といふいとなみに、唯一の尺度というのは存在しないのだろう。こうした展覧会が活発に行われることが、書の多様性を育む大きな役割を果たしているに違いない。私のような外部審査員を加えていることも、この展覧会が多様な価値観を受け入れようという意志のもとに運営されていることを示しているのだろう。

第49回展に出品された作品は194点。48回展よりも18点増加した。はじめに、5人の審査員全員で全作品を通覧し、続いて、一人あたり1点から5点までの札で各作品の評価を示した。これによって合計点13点以上の131点が入選と定められた。この時点での最高点は20点、ずば抜けて高得点を獲得した作はなく、16点以上を獲得した55点について、再度作品を熟覧しながら上位8賞の選考にあたった。ここからさらに二段階の選出で19点まで作品を減じ、これを対象に投票を行って8点を選んだ。得票の多い順から賞を付し、同点の作については審査員の合議で賞を決した。35歳

以下の作家に与えられる美術奨学会記念賞の2作もこの上位8賞に選出され、得票通り、調整の必要はなかった。

表現が多様であるとはいものの、技法という点においては伝統を確実にふまえ、高度に鍛錬された作が選出されたのではないだろうか。

「張子容詩」で大賞を受賞した井上春苑さんは、第45回展に出品した「常建詩」で美術奨学会賞を受賞している。4年前のこの作よりもさらに線に深みが加わり、七絶を三行に破綻なくまとめ上げた。ジワリと魅せる秀作といえるだろう。

準大賞、小嶋直子さんの「秋海棠の花」は、筆の開閉を生かした線と、一首目と二首目とで諧調を変えた表現が悠揚な雰囲気を作り出す。細かな作意よりも豊かな心情が前に出る。

特選の横山聖水さんは、明末清初の風に黄山谷あたりを取り入れたメリハリのある作。もう一点の特選、小磯栄芳さんの「劉松詩」は、後漢の隸書のやや単調に陥りやすい面をよく練られた線の表情で華やかなものにした。

奨励賞「唐衣」の棧敷東煌さんは漢字を習い込んだものと思われ、思い切りの良さと抑制的な表現が同居する。県文具事務用品団体連合会賞の遠藤子杏さんは、すべて左右対称の四字を巧みに布置、きっぱりと充実した彫りに実力が發揮された。美術奨学会記念賞の小島右慎さんは昨年の特選に続く連続受賞。鄧石如風の篆書と慎重に認められた款記には一種の風格がある。同じく日守鍊さんは、科学の領域に侵入しそうな言葉を選んでそのダイナミズムを形にした。阿らず、弛まず進まれると新たな表現が生まれるのでないだろうか。

写真

倉石 信乃

当たり前ですが、審査を通じ時代の趨勢を強く感じました。端正に作られたモノクロ写真が著しく少なくなり、いささか雑駁にプリントされるカラー写真が多い。主題に即していえば、人間を写したものはとても少なく、風景へのアプローチが量として圧倒しています。残念ながら応募作にあっては、2010年代の日本という社会の状況をヴィヴィッドに伝えているものは、多くはありませんでした。

そうした中で評価された作品は、まず人間への率直なアプローチが企図されたものでした。端的にこうした動機付けが貴重に見えたからです。次に、作者自身の宿痾めいた感情表現に恥じることなく取り組む作品も評価されました。また、写真ならではの形式的な要素（光と影、反射など）にこだわったものも注目されました。

大賞の加山邦輔作「郷里.8.15」は、農村の盂蘭盆の頃を綴ったと思しき三連の作品で、左に送り火を焚く夫と眺める妻、中央にスマホを操作する若い女性、右に談笑する三人の中年女性を配しています。「8.15」の日付は先の大戦を観者に連想させますが、お盆に決まって死者を迎える農村に、いまなお備わる底力こそが、作者の描きたかったもののように見えます。準大賞の三村信昭作「跳ぶわよ！」にあるのは、子供という自然成長力への信頼にほかなりません。特選の古郡和敏作「2年という歳月」がテーマに据えた震災からの時間経過は、とりわけ右に配された畠に水を撒くシーンにおいて明快に、文字通り再生の「萌芽」へと接続されています。中央の回る風車や左の蛇行する雲には、コトバにできない感情を写真の中のカタチに載せる

ことへの自負が見られます。このような感情表現は、特選の清水治弘作「追想」における、古い学舎の細部の質感の見事な、そして執拗な描写にも印されています。奨励賞の岩崎茂樹作「予兆」にある、暗く青黒い一様なトーンの海にも、確信を持って吐露される過剰なまでの感情がみなぎっています。

特選の石川英樹作「緑の倫理」は、光の調子を変えた二組の森の写真ですが、そこには光と影の対比という古い写真の課題が、あたかもネガとポジのようなコンビネーションで、新しい意匠をまといつつ顕れ出てきています。反射というやはり古い課題を再演する、ニコン賞の竹内修作「田に遊ぶ」の機知もまた、注目されました。石川氏と竹内氏の作例は、いかにも写真的な要素と戯れることの可能性が依然として、あるいはかろうじて命脈を保っている事情をはからずも明かしていました。美術奨学会記念賞の安井みゆき作「sink」に、私は亡き東松照明の傑作「家」の一つ、あの天草の「流し」の画を見出しました。今も昔も日常には不気味でクールな事物が、われわれに先触れを送っています。そのような「合図」を送るのは同じ賞をとった本岡幹朗作「彼奴の存在」におけるブレボケのネコでもあります。日常を搅拌する他者の出現は依然として、写真が捉えるべき中心的課題の一つなのです。



大賞

水流文鉢／土橋 一博

ガラス 径41×10cm 4kg

【略歴】 1957年 新潟県生まれ
1987年 東京ガラス工芸研究所卒業
1989年 日本伝統工芸展 入選
伝統工芸新作展
(現称 東日本伝統工芸展) 入選
伝統工芸第七部会展
(現称 伝統工芸諸工芸部会展) 入選
2002年 伝統工芸第七部会展
(現称 伝統工芸諸工芸部会展) 朝日新聞社賞
2010年 東日本伝統工芸展 山種美術館賞
現在 日本工芸会 正会員





準大賞

Tubeworm ／ 関水 美穂

綿 140×1×160cm 1kg

【略歴】
1987年 神奈川県出身
2012年 東京芸術大学美術学部工芸科 卒業
2012年 全国染織展 奨励賞
2013年 東京芸術大学大学院美術研究科工芸専攻 在籍



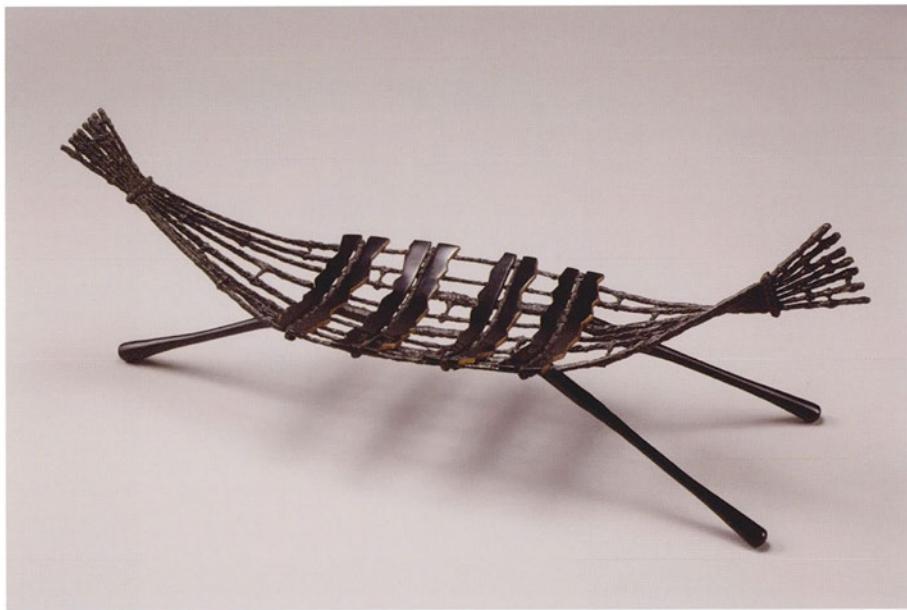
特選

白磁綾器／佐藤 典克
磁工 51×51×20cm 約6kg



特選

団栗の木のある風景／福田 典子
銅板に七宝釉など 91×65.2cm 11kg



奨励賞

草原の貢ぎもの／鶴岡 弘
漆 21×83×30.5cm 約1kg



大塚学院賞

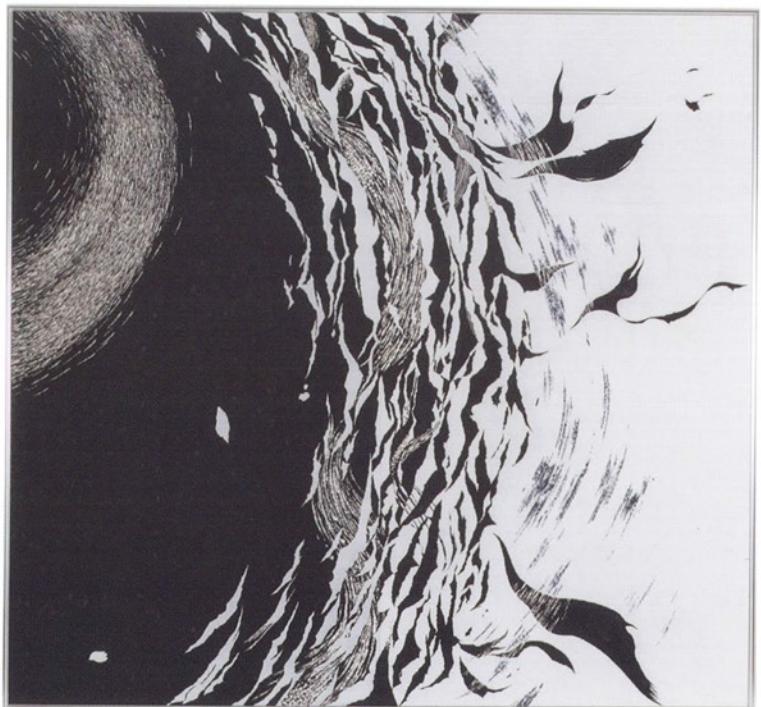
栗長文机(拭漆)／柴原 勝治
栗 56×172×47cm 25kg



美術獎学会記念賞

風化紋銀彩器／伊藤 康行

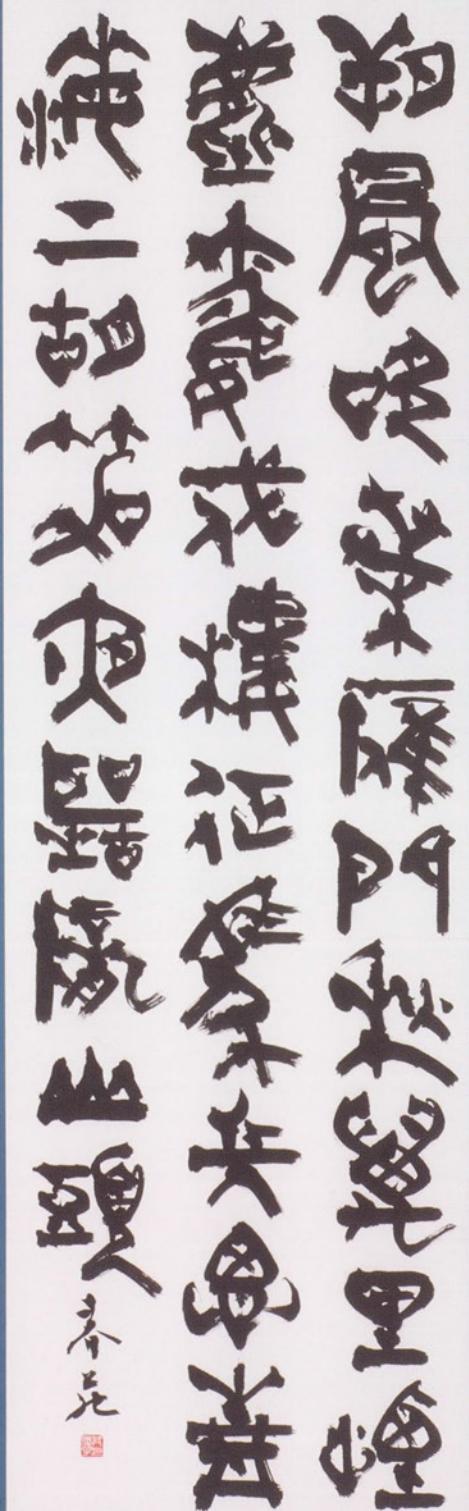
陶土 11×16×24cm 1.25kg



美術獎学会記念賞

黒陽／大貫 路子

絹 3.5×160×150cm



大賞

張子容詩／井上 春苑
182×61cm

[略歴] 1956年 佐賀県武雄市生まれ

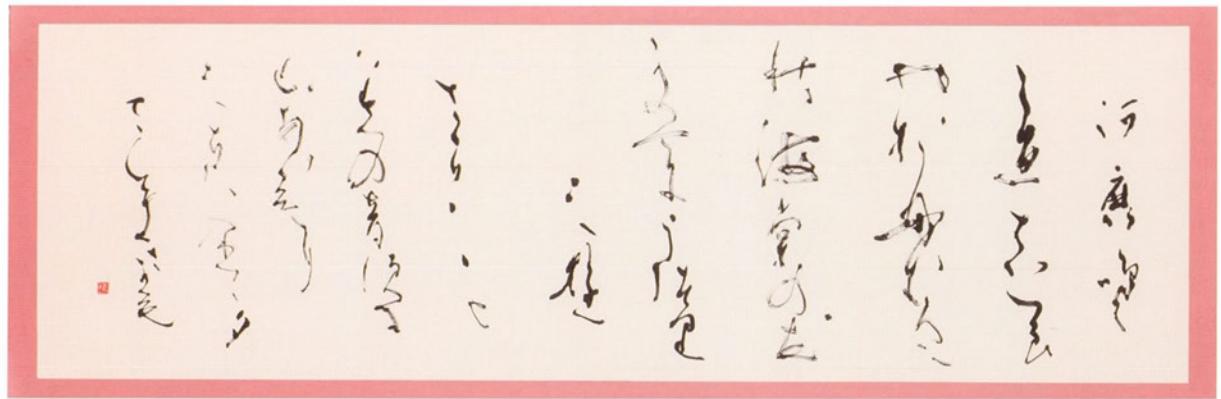
日展入選

読売書法会幹事

謙慎書道会理事

青山杉雨、高木聖雨に師事

[受賞歴] 第45回神奈川県美術展 美術奨学会賞



準大賞

秋海棠の花／小嶋 直子

61×182cm

[略歴] 昭和18年 千葉県生まれ
齊藤紫香(藍筠会副会長)に師事
横浜国大卒
第35回日展 初出品初入選
読売書法会幹事

特選
送許竹隱之紹興／橫山 聖水
182×61cm

醉後方知心事急
却悔輕也已濤聲驚夜半
醉裏酒是萬物載懷未忘
醉中人入秋風酒色紅

特選
劉松詩／小磯 茉芳
182×61cm

無口體每日沉吟
嚮古洞中聽雨聲
醉裏人來醉裏人
醉中人醉中人



獎勵賞

唐衣／棧敷 東煌
53×173cm



県文具事務用品団体連合会賞
希高慕古／遠藤 子杏
39×30cm



美術奨学会記念賞

篆書七言聯／小島 右慎
170×50cm



美術奨学会記念賞

現実からの視点を越えて／日守 錄
182×61cm



大賞

郷里.8.15(3枚組) / 加山 邦輔

【略歴】 1939年 東京都生まれ
1958年 川崎市立商業高等学校卒業

【受賞歴】 1976年 第9回神奈川写真サロン課題の部 大賞
1979年 第12回神奈川写真サロン自由の部 大賞
1981年 第16回神奈川県美術展 入選
1991年 第27回神奈川県美術展 入選
2008年 第44回神奈川県美術展 特選



準大賞

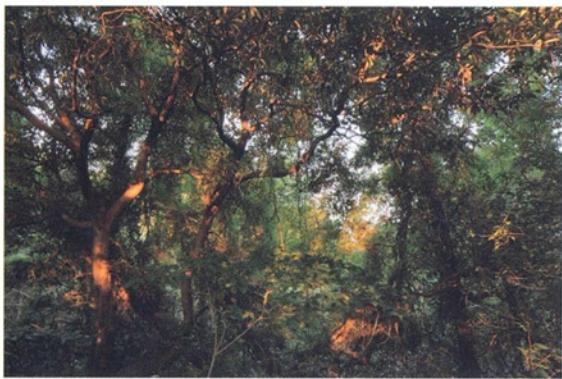
跳ぶわよ！／三村 信昭

【略歴】

- 1942年3月22日東京生まれ
1954年 写真を始める。(小学6年生時)
1958年～ 本格的に作画活動を開始
藤井秀樹氏に指導を受ける。
雑誌月例、各種コンテストで数多く入賞
1960年～ プロ作家を目指す(大学入学時)
古瀬浩資氏と八木原茂樹氏に指導を受ける
日本大学文理学部写真研究会委員長
1976年～ 女性写真を主体に作画活動
2005年～ デジタル写真の基礎理論を学び、ジャンルにこだわらない作画活動を開始
豊田芳洲氏の写真理論に共鳴し指導を受ける
2010年 デジタル写真の映像表現の可能性について追究をはじめる
2011年 「全日本写真連盟」に入会する

【主なコンテストの入賞歴】

- 2009年 湘南ひらつか七夕まつり写真コンテスト 入選
2010年 JPA公募展 入選
神奈川県美術展 特選
「アサヒカメラ」誌月例カラープリントの部 入選5点
「日本カメラ」誌月例カラープリントの部 入選2点
2011年 JPA公募展 奨励賞
神奈川県美術展 準大賞
ハマ展 入選
2012年 JPA公募展 入選
ハマ展 入選
フォトシティさがみはら 入選
2013年 JPS公募展 優秀賞
フォトシティさがみはら 銅賞



特選

緑の倫理(2枚組)／石川 英樹



特選

追想(3枚組)／清水 治弘



写真



特選

2年という歳月(3枚組)／古郡 和敏



奨励賞

予兆(3枚組)／岩崎 茂樹





ニコン賞
田に遊ぶ／竹内 修



美術奨学会記念賞
彼奴の存在／本岡 幹朗



美術奨学会記念賞
sink／安井 みゆき

出品点数一覧表

	平面	立体	1期展小計	工芸	書	写真	2期展小計	合計
応募	184人 (250作品)	60人 (65作品)	244人 (315作品)	128人 (147作品)	194人 (194作品)	134人 (196作品)	456人 (537作品)	700人 (852作品)
入選	87人 (87作品)	23人 (23作品)	110人 (110作品)	82人 (82作品)	123人 (123作品)	59人 (59作品)	264人 (264作品)	374人 (374作品)
入賞	8人 (8作品)	1人 (1作品)	9人 (9作品)	8人 (8作品)	8人 (8作品)	9人 (9作品)	25人 (25作品)	34人 (34作品)

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画	第16回 55年度 和久井 Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回 41年度 廣瀬 義男『作品I』洋画	第17回 56年度 坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 參平『BODY』工芸
第3回 42年度 垣内 治雄『坐る』彫刻	第18回 57年度 小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹聲松影』書
第5回 44年度 山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第20回 59年度 東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第6回 45年度 伊藤 彰『天涯巡礼』日本画 大久保利圀『Straw』工芸 西川 万象『蘆子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真	第21回 60年度 鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵐『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・サンダー(フェリス女学院)』写真	第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 卓舟『良寛詩』書
第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第23回 62年度 高橋 洋子『WAVE (BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第24回 63年度 三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画	第25回 平成元年度 セツ・ズスキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第11回 50年度 鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第26回 2年度 山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『通かなる亜熱帯』工芸
第12回 51年度 泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第27回 3年度 荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第13回 52年度 井上 麦『黒の女-'77』彫刻	第28回 4年度 たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第14回 53年度 坂田 一之『MIRROR』立体造形	
第15回 54年度 前本 利彦『暗い部屋I, II』日本画 川口 流坡『苔原道真詩』書	

第 29 回	5 年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第 40 回	16 年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関 (第五福竜丸エンジン)』写真
第 30 回	6 年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笙澤美明詩 菊』書	第 41 回	17 年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 晓雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描 (2 枚組)』写真
第 31 回	7 年度	R 津田『封印一過去と未来一』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第 42 回	18 年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝朓北楼』書 商 家訓『路傍の華 (3 枚組)』写真
第 32 回	8 年度	結城 勉『個々の領域—群像 I』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民 (ネパール)』写真	第 43 回	19 年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第 33 回	9 年度	飼持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8 朝』写真	第 44 回	20 年度	大石 麻央『アダムとイヴ もしくは自分の愛し方』平面立体 吉井こころ『月海一つきうみ一』工芸 茂住 菁邨『称薦』書 中山洋之助『将棋三昧 (3 枚組)』写真
第 34 回	10 年度	笠井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真	第 45 回	21 年度	高橋 善一『Hornet II』平面立体 丸山 愛『striplay』工芸 松永 光鳳『三十六歌仙』書 永山 悅朗『記憶・パキスタン地震 (3 枚組)』写真
第 35 回	11 年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斎藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稻葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真	第 46 回	22 年度	菅原 有生『くさはら I』平面立体 池田 節子『藍遊び』工芸 二瓶 祥舟『夜行』書 漆原 利大『追憶 (3 枚組)』写真
第 36 回	12 年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園 (ガラパゴス)』写真	第 47 回	23 年度	古井 彩夏『Continual zone』平面立体 荒 姿寿『Endless flow』工芸 板越 蒼龍『秋興八首内三首』書 長尾 宏『猛暑日 (3 枚組)』写真
第 37 回	13 年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女瞳私 I.2.3. (NUDE)』写真	第 48 回	24 年度	西野由璃子『永劫』平面立体 小泉 昌浩『Catastrophe』工芸 喜多 光蓮『万葉のうた』書 米山 好入『山間の街』写真
第 38 回	14 年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 板木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—I ~ V』写真	第 49 回	25 年度	安田 文夫『がん告知・余命?・孫と遊ぶ (2 枚組)』平面立体 土橋 一博『流流文鉢』工芸 井上 春苑『張子容詩』書 加山 邦輔『郷里 .8.15 (3 枚組)』写真
第 39 回	15 年度	井上 達也『植勢 II』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言つても …』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真			

第49回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成25年9月4日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 酒井 忠康
副委員長 林 義亮

委員

内田あぐり 本江 邦夫 北澤 憲昭 水沢 勉
富田 康子 関井 一夫 船本 芳雲 石川 芳雲
倉石 信乃 前田 利昭 遠藤 玲子 中村 英二

審査員

平面立体
小野 友三 北澤 憲昭 丸山 直文 水沢 勉
尹 熙倉

工芸

上原 利丸 白幡 明 関井 一夫 高田 三平
富田 康子

書

石川 芳雲 小川 對山 川口 流坡 棚敷 東石
高橋 利郎

写真

伊奈 英次 倉石 信乃 小林 紀晴 前田 利昭
山田 信次



有隣堂

画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■伊勢佐木町本店(4F) TEL.(045) 261-1231

■厚木店(4F) TEL.(046) 223-4111

■藤沢店(フジサワ名店ビル4F) TEL.(0466) 26-1411

※藤沢店は書道用品のみ取り扱っております。

布の未来を創る

駒井 能里子(伝統織物専攻主任教員)
第53回東日本伝統工芸展
「桜夜風」



小田中 藍
第52回日本現代工芸美術展
「日々進む」



資料・願書無料送呈

学校(授業)見学 平日随時(要申込)

学校説明会 13:00~15:00
9月21日、10月12日、11月2日

一日体験入学
12月7日(土) 10:00~15:00

工芸染織卒業制作校外展
2014年3月6日~9日 日展会館

テキスタイル科卒業制作校外展
2014年3月11日~16日 LE DÉCO2

◆学科・コース構成◆

きもの総合科(昼2年30名)

- ・きもの技術コース
- ・きもの染織コース
- ・きものスタイリストコース
- ・舞台衣裳コース

デザイン総合科(昼2年40名)

- ・テキスタイルデザインコース
ファッションデザイン専攻、インテリアデザイン専攻
- ・工芸染織コース
友禅染色専攻、伝統織物専攻

テキスタイル科(夜2年30名)

国際情報処理科(昼2年30名)



大塚きもの・テキスタイル 専門学校



(旧)大塚末子きもの学院、大塚テキスタイルデザイン専門学校、大塚情報処理専門学校

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-1-27 ☎ 03 (6278) 9361 FAX 03 (6681) 2714

URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp

eco noge は、野毛印刷が推進する
環境保護をテーマとした
活動および事業展開です。



たいせつなものを もっとたいせつに。

例えば、情報に命を吹きこむということ、

例えば、個人情報をたいせつに扱うということ、

例えば、環境にやさしい印刷をするということ。

私たちに求められるたいせつなこと、たいせつなものを、

もっともっとたいせつに。

創業以来60余年の実績を誇る印刷事業をベースに

常に時代のニーズへ対応する野毛印刷は、

さまざまなメディアを駆使して、

情報の新しい価値を創造します。



GREEN PRINTING JFPI
F-D100006/F-D10007
営業企画本部／福浦工場

当社営業企画本部・福浦工場は
グリーンプリントイング認定工場に
認定されました。



水を使わず、水を汚さない
環境にやさしい
水なし印刷を採用しています。



人にも社会にもやさしい製品づくりを
推進し、メディア・ユニバーサル・
デザイン協会に参画



当社は個人情報を保護する企業を示す
「プライバシーマーク」使用の
許諾事業者として認定されています。

プライバシーマーク 使用認定
ISO 14001 9001 認証取得

野毛印刷

営業企画本部／横浜市南区新川町 1-2 ☎232-0027

（045）252-2511

<http://www.noge.co.jp>

The 49th Kanagawa Art Exhibition 2013
第49回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業制作第一課内

〒231-0023 横浜市中区山下町 3-1

TEL. 045-662-5901(代)

写真撮影：奥野 規

印刷：株式会社野毛印刷社

発行：2013年9月4日



